

いわて平泉米だより

令和7年1月号



・生育経過について

育苗期は、平年より気温が高く推移し、苗焼きや徒長気味の苗が見られました。田植えはおおむね適期内に行われ、6月中旬から気温が高く推移したため、茎数が十分確保され、中干しも順調に実施されました。7月中旬は、県内全域で降水量が多く、日照時間が短かったため、この期間が稈長の伸びに影響し、稲が倒伏しやすい状態となりました。また、管内の出穂期と登熟期も3日早まり、刈り取り時期も昨年並みに早く、9月上旬から始まりました。穂数、総もみ数はやや多く、登熟歩合はやや高く、作況指数も岩手県で106(良)、北上川下流で105(やや良)となりました。



・米の品質について

管内の1等米比率は94%と全国的にも高く、品質・食味的に良い米が生産されました。また、落等原因については、カメムシによる着色粒が多く、去年ほどではないものの高温障害による白未熟粒も見られました。また、9月中下旬に降雨の日が多く、刈り取り遅れや倒伏による品質低下が若干見られました。

一部県稲作技術対策会議資料より抜粋

令和7年産は、土づくりや高温対策等を重点にあぜみち相談会やLINEで呼びかけていき、いわて平泉米のさらなる品質、食味向上に努めたいと思います。

JAのLINE公式アカウントにおいて宮農情報等を発信します。友だち追加をお願いします。

